



つながる喜び

校長 石原 加代子

あけましておめでとうございます。新年を迎え、雄大な富士山が一層明るく輝いて見えます。教職員一同改めて子どもたちとしっかりと向き合い、安心する居場所のある笑顔あふれる学校づくりに努めてまいります。

創立50周年記念式典をふり返ると、今でも感動がよみがえります。学習をふり返ったり友達や保護者の皆様にアドバイスをもらったりして、よりよい伝え方になるように改善し、式典当日は、全校児童の一人ひとりが最高の姿を発揮しようとしていました。支えてくださった方々に観ていただく緊張感は、子どもたちの意欲と集中力を高め、大きな成就感をもたらしました。式典後に、ご来賓の方々から嬉しいお言葉をたくさんいただきました。「6年生を見れば、どんな学校か分かります。いい学校ですね。」「以前、家庭科ボランティアをやっていました。また、子どもたちと関わりたくなりました。」「ずっと涙が止まりませんでした。」…子どもたちや教職員の想いが伝わり、心がつながる喜びを感じています。深谷っ子、教職員、参列者の皆様で創りあげた記念式典になったのではないのでしょうか。子どもたちは、豊かな自然や優しさいっぱいの温かい深谷の魅力に気付くとともに、「人に優しくしたい。」「もっとまちのことが知りたい。」「自然を守りたい。」「これからも、安全なまちにしたい。」などの願いをもちました。教職員も、開校の頃から多くの方々に支えられてきたことをしみじみと感じ、心から感謝するとともに、深谷のまちの皆様とともに子どもたちのために一層充実した教育活動になるよう尽力しようと思いました。

さて、地域防災拠点訓練には5年生が参加し、地域の方々に取材したことをもとに防災について大切にしたいことを伝えました。深谷のまちの防災意識を高める一助になればと思います。子どもたちの会話には「〇〇さん」のように、名前がよく出てきています。さらに、顔が見え、名前と呼ぶつながりが広がっていくのが楽しみです。

以前、本校の児童が地域の畑に入ってご迷惑をかけたことがありました。持ち主を探して近隣に尋ねたところが、糸鋸作家の久野さんのお宅でした。畑の持ち主は久野さんの知り合いで、遠方のため久野さんを通して謝ることができ、子どもたちの心はすっきりしました。この出来事がきっかけで久野さんとのつながりが生まれ、創立50周年を記念して幾つもの素晴らしい作品を制作してくださいました。大切に使用させていただきます。



嬉しいことに、『深谷っ子愛護会』が12月に発足しました。照井さんをはじめとする有志で子どもたちのためにできることをしたいと、提案してくださったのです。手際よく樹木剪定や花壇整備をして、花でいっぱいにしてくださいました。新たなつながりが始まり、深谷っ子を見守り、一緒に育てていただけるのはとても心強いです。

これからも、様々な教育活動を通して、深谷のまちとのつながりを深め、まちを愛する心を育てるとともに、まちを創る担い手になるように教育活動を進めていきます。引き続き、地域の皆様・保護者の皆様の温かいご支援をよろしく願いいたします。